

## 移住コンシエルジュの ぶらり鹿角散策

ふきんキ



市役所裏の駐車場には、雪の壁ができています

移住コンシエルジュの3人が鹿角で初めての冬を迎えました。今回は、鹿角の冬の生活で感じた魅力を、それぞれが紹介します。

■政策企画課 鹿角ライフ促進班 ☎30・0208

眞鍋コンシエルジュ

## 冬も楽しめる鹿角

四国は香川県三豊市から、鹿角に移住して初めての冬です。鹿角の冬は最高です。最高の除雪技術で道路は走りやすく、近くのちよっとした斜面でそり滑りを楽しめます。

私は自動車の運転が好きです。路面状況が日々変わるので、通勤の道路がいつもと違う道に感じ、運転に飽きません。先日は勇気を出して、いざ八幡平へドライブに行きました。モコモコと音を立てながら、八幡平ピジターセンターに到着しましたが、途中一度だけホワイトアウトを経験し、とても怖かったです。しかし、素敵な景色と共に



雪だるまをつららで楽しそう!

屋根からこんなに雪が落ちました!



にお気に入りの音楽をかけてのドライブはそれだけで十分楽しいです。

「水下げ」の文化も初体験しました。今では寝る前の儀式として、一日の良い区切りになっています。

家族も雪国での暮らしは初めてですが、子どもは元気に外で遊んでいます。初めての雪だるま作りのほか、つららを取って、寒さをよそに楽しそうに遊んでいます。

鹿角の冬の生活には、いつもと違う「楽しい」が隠れています。まだまだ発見できていない「楽しみ」を求めて、これからも活動を続けていきます。

中根コンシエルジュ

## 「こだわりが光るきりたんぼ」

寒い季節の鍋料理なら、やっぱり私ばかりたんぼ鍋です。

そこで今回は、寒い季節に体温まる「きりたんぼ」をテーマに、鹿角にあるきりたんぼ専門店のみつわ食品と柳田きりたんぼ店を取材しました。

### みつわ食品

たくさんの人に食べてもらいたいと、初代社長がちくわ屋さんいきりたんぼ用の機械を特注で作ってもらったそうです。鹿角産あきたこまちのみを使用し、甘さを引き出すために、注文が入ってから焼いています。

←初代社長がちくわ用の機械をきりたんぼ用に改良【みつわ食品】



←手作りの職人技で食べた時のおいしさを追求【柳田きりたんぼ店】



### 柳田きりたんぼ店

手作りにこだわり製造しているのと、こで、スープが染み込みやすくするため、米の隙間に空気の通り穴を作るよう、繊細な力加減で握られているそうです。焼き具合の調整なども含め、職人技が光る一品となっています。



取材を通して、ますます鹿角のきりたんぼの魅力に惹かれていきました。鹿角のきりたんぼに対する尽きない愛情は、味に現れていると実感しました。

市内には、きりたんぼを食べられるお店や旅館、ホテルがたくさんあり、移住ツアーで来られた県外の方を連れていくと、とても喜ばれます。これから、さらに多くの方々に、鹿角のきりたんぼのことを知ってもらいたいです。

井手口コンシエルジュ

## 雪は無限の遊び道具

毎日、5時に起きて雪かきをするのが文字通り朝飯前の仕事となりました。井手口です。雪が多い日には1時間かかる時があります。出身地の由利本荘市が「秋田県のカリフォルニアである」と聞いた時「それは無い」と笑ったのですが、雪が少ないという意味では間違いなくカリフォルニアでしょう。本荘ではサーフィンもできますしね。

1月のある日の話です。ぶ厚く積もった鹿角の雪をみて、二人の子どもたちは大喜びしていました。サンタに貰ったそりで遊ぶのかと思いきや、手



雪の「お風呂」で大はしゃぎ!



朝5時の雪かきが日課です!

にしたのは子ども用スコップでした。一心不乱に雪を掘り、作ったのはただの「空洞」でした。3歳の娘は「おうちをつくった」と大はしゃぎです。

次の日も、積もった雪を上の方からくりぬき始めました。作っているのは「お風呂」だそうです。祖父と祖母の助けを借りて出来上がった雪のふわふわお風呂に入り、二人の子どもたちは大喜びしていました。

雪を見て、そりに乗ったら楽しいだろうというのは、頭の固い大人の発想なのかもしれません。子どもにとっては、雪は無限の遊び道具なのかもしれません。今日も降り積もる雪を見てワクワクしていることでしょう。

私は朝飯前に行く、決して朝飯前とは言えない雪かきが待っていると思うと、秋田県のカリフォルニアが少し恋しくなります。もちろん鹿角も大好きですよ。